



豪快な滑降を楽しむ！

## 鳥海山・鳥越川 山スキー

浅井

【日 時】 2007年4月28日～30日

【メンバー】 野村(L)、浅井、棚橋

鳥海山はトマでは山スキーでよく登られている山であるが、私はまだ一度も行ったことがない。手嶋会長も一番好きな山と絶賛しているその鳥海山に今年あたりは是非行ってみたいと思っていたところ、野村さんが計画を出してくれたので、これは願ってもないチャンスとばかり参加することにした。鳥越川は山スキーではオーソドックスなルートであり、野村さんも過去に一度行ったことがあるとのこと。私と同じく鳥海山は初めてという棚橋さんも加わり、計画が固まった。

4月28日(晴)

前夜、野村車で東京を出発。朝、山麓の象潟の町に入る。芭蕉の『おくのほそ道』で有名なこの町を訪れるのも初めてだ。最近の町村合併により、現在は「にかほ市」になっている。ここで予定通り恒例の(?)買出しをする。少し寂れた駅前の店を回り、日本酒(飛良泉)と海産物(鮪のさしみと焼きあなご)を仕入れた。そしていよいよ車で鳥海山へと向かう。その優美な山容は遠くからも見えていたが、近づくにつれていよいよ大きく迫り、期待が高まる。途中林道の脇に寄り道し、今夜の天麩羅用の山菜を物色する。タラの芽が少し採れた。今日はベースまで行くだけなので、こんな風流なこともできる。これもこの時期の山スキーならではの楽しみだ。

中島台キャンプ場に車を置き、12:25、出発。雪の多い年はここからスキーが履けるらしいが、今年はやはり寡雪のようで、辺りに雪は全くない。スキーをザックにつけて遊歩道を歩き始める。湿原地帯の出壺とある所から遊歩道を離れて鳥越川の方に行こうとしたが、水でぶかぶかの湿地帯に足を取られて苦労した。靴を濡らさないように注意しながら、鳥越川右岸の斜面を這うように進む。遅々として進まないのが先が思いやられるが、ようやく堰堤の上からまとまった雪が出てきたので、ここからスキーを履く。後は雪のある斜面を拾いながら進み、今日のタイムリミットが迫る頃、右岸に幕場適地を見つけたので、ここで幕とする(16:25)。ここは標高720mあたりと思われ、予定よりもかなり下だが、出だしでこずったのでやむを得まい。ここはすぐ近くで水が汲めるので楽だ。

さっそくテントの外でタラの芽と途中で採ったフキノトウを天麩羅にして食べた。日が傾くと寒くなってきたので、後はテントの中で象潟で買ったさしみなどをつまみに酒が弾む。誰もいない静かな山の中で、贅沢な時間が流れた。寒気が流れてきたのか、その夜はかなり冷え込んだ。

4月29日（晴れ、風強し）

5:40、出発。今日は最初からシール登高である。鳥越川右岸沿いの気持ちの良いブナ林の緩斜面を快適に登っていく。我々が当初幕場に予定していた標高1000mの辺りでは、先行パーティがテントを張っており、出発準備をしていた。ここを過ぎると樹林がまばらとなり、かなり強い風が吹き下りてくる。時々吹き飛ばされそうになるほどの強風で、しばし歩みを中断させられた。



強風の中、鳥海山頂を目指す

この強風の中、果たして山頂まで行けるのか少し不安になる。しかし上部に登るにつれて周囲の外輪山に風がさえぎられるのか、不思議と風が収まった。行く手には白銀に輝く山頂とそこから続く外輪山が望まれ、日本離れした広大な光景が広がっている。急登をスキーアイゼンを利かせて登りきると、千蛇谷の広大なスロープが目の前に広がり、また大感激！ この谷を詰めていくといよいよ山頂である。

ここで鉾立から山頂に向かっているはずの橋本・尾木原パーティと無線交信。彼らは千蛇谷に降りる所を探しているようだが、なかなか見つからず苦労しているようだ。千蛇谷で合流しようという話も事前にあったのだが、この強風では無理しない方がよさそう。結局千蛇谷での合流はあきらめて、我々はそのまま山頂へと向かう。千蛇谷の源頭からは先行の数名が滑り降りてきた。我々と並行して登っていた先程のパーティは、途中から何故かスキーを脱いでシュリングで引っ張りながら登っていた。

源頭の急登を登りきり、12:15、山頂直下の大物忌神社に到着。ここでスキーをデポして、歩きで山頂を目指す。山頂付近はそこそこの人で賑わっている。吹き飛ばされるような強風の中、最後の急な雪壁を登って、12:50、山頂(七高山)に立つ。展望をゆっくり楽しみたいところだが、強風の中ストックで体を支えているのがやっとなという状況なので、写真も撮らずに早々に下山。今回は持ってこなかったが、やはり最低でも靴のアイゼンがあった方が安心だと思った。一旦下りて、新山の山頂にも立ち寄ったが、こちらの方は風が少し弱かったので、しばしのんびりする。象潟付近の海岸線がよく見下ろせた。

デポ地に戻り、14:00、いよいよ滑降開始。まずは千蛇谷の広大なスロープを快適に滑り降りる。多少の凹凸はあったが、雪質もよく、快適な滑降が楽しめた。テレマークの野村さん、フリーストレックの棚橋さんも、思い思いのシュプールで快適に飛ばしていく。千蛇谷の先の急斜面では、まだ誰も跡をつけていない斜面に我々だけのシュプールを刻み、至福の時を味わった。下りはあっという間で、鳥越川右岸のブナ林を快適に滑り降り、15:30、幕場に戻った。当初の計画よりも下の幕場だったが、時間的にもここで正解だった。

さっそくテントの中で宴会開始。大満足のスキーの余韻に浸りながら、昨日の買出しの残りの「焼きあなご」などをつまみに酒が弾んだ。夕食のメニューは私が新宿南口の宮崎館で買った「ひや汁」だったが、これが意外と好評で、今後の山のメニューに加えてもいいかなと思った。その夜は、昨夜の冷え込みはだいぶ収まった。

4月30日（晴）

8:00、出発。今日は駐車場に下りるだけである。初日に苦勞した鳥越川には下りずに、台地状の斜面を北に向かって滑る。さすがに最後はスキーを担いだが、行きよりもはるかに楽に出壺付近の木道に降りることが出来た(8:40)。行きも最初から台地状の所へ上がればよかったのだが、先が見えない状況だったので仕方がない。後はハイカー気分です遊歩道を歩き、9:30、車に戻った。

帰り道、山麓の民宿(鶴泉荘)の温泉に寄ったが、ここで一足先に来ていた橋本さん・尾木原さんと合流し、お互いの状況を交換する。彼らは結局強風で山頂までは行けなかったが、それなりにスキーは楽しめたとのこと。象瀉の道の駅で一緒に食事をした後、今日は帰らずに月山の麓の民宿にもう一泊するというリッチな彼らと別れて、我々は帰路についた。

私にとって初めての鳥海山は、今シーズン最高の豪快な滑降が楽しめたすばらしい山でした。野村さん、棚橋さん、楽しい山行ありがとうございました。

#### 【行程】

- 4/28 中島台キャンプ場(12:25)～鳥越川の堰堤(14:45)～鳥越川右岸720m付近の幕場(16:25)
- 4/29 出発(5:40)～大物忌神社(12:15)～鳥海山山頂(12:50)～大物忌神社から滑降開始(14:00)～BP(15:30)
- 4/30 出発(8:00)～出壺付近の木道(8:40)～中島台キャンプ場(9:30)

#### 【地形図】 鳥海山

千蛇谷の広大なスロープを滑る

